

「隈之城小学校の「ふるさと隈之城について調べよう」の取組」

1 学校名

薩摩川内市立隈之城小学校

2 学年・人数

6年生 (計 87 人)

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

学習会：9月～11月

「ふるさと隈之城」について調べよう

(2) 発表の日時・場所

令和3年11月2日(火)

薩摩川内市立隈之城小学校「くまっこフェスタ」

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

二福城跡(にふくじょう)：平安～鎌倉時代 ・春日神社(かすがじんじゃ)

殿様の籠置き石：江戸時代 ・宮崎町赤沢津：森殿原の宝塔

(2) 特徴

二福城は、別名を隈之城といわれ、平安末期から鎌倉初期にかけて薩摩氏が、その後、島津氏、入来院氏、再び島津氏と城主がかわり、江戸初期に廃城となった。城内に、隈之城郷の地頭仮屋が置かれ、周辺に麓を形成した。なお、地頭仮屋は江戸時代初期、向田の仮屋馬場に移転した。

春日神社は、奈良の春日大社を宮崎の先人が勧請し産土神として崇め、現在も歳旦祭、春の大祭(勸学祭)、夏越際(6月灯、相撲大会)、秋の大祭などが催される。なお、境内には、田の神4体、豊受の神、文久3年(1863年)の薩英戦争勝利祈願碑3基などがある。

籠置き石は、薩摩街道沿いで江戸時代参勤交代の休憩場所であり、殿様の籠を置いたと伝えられている石が灯籠になっているものである。

森殿原の宝塔は、平安末期から鎌倉初期にかけて、この一帯を支配した平姓薩摩六郎直忠夫妻の墓である。宝塔は森稲妻神社の境内にあり、この近くから縄文、弥生時代の遺物が出土している。

5 保存会や地域との連携の具体

ふるさと・コミュニケーション科の時間(児童対象)に、隈之城地区コミュニティ協議会が作成した「隈之城の歴史と文化財」を活用し、学習を進めた。また、分からなかった点については、川内歴史資料館の中島館長に話を聞き、隈之城の史跡や文化財について教えていただいた。また、児童をグループ分けし、郷土史の資料を調べたり、現地調査を行ったりした。その後「くまっこフェスタ」や川内南中校区小中一貫教育実践発表会での発表資料を作成した。

6 活用の取組の工夫した点

調査したことを発表する新聞や発表用プレゼンテーションを制作する際は、写真を活用して、分かりやすい資料作りに心掛けた。調べた感想なども発表できるようにした。

7 取組の様子（研究発表，創作劇等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

- ・ 普段，登下校で通学している場所に，歴史上の史跡があることに驚いた。また，見学した史跡以外にも，たくさんの史跡や資料があることが分かり，もっと調べてみたいと思った。

【教員】

- ・ 今，生活している地域に歴史的な繋がりを感じることでできる史跡があることをしり，長い時間の中で自分たちの生活が作られていることに気付くことができた。また，他の地域や国の歴史，地理についても興味をもつよい機会になった。
- ・ 教師もフィールドワーク等を通して，地域の史跡に関する学びを深めたい。

【地域の方から】

- ・ 隈之城の子ども達が故郷の歴史と文化財について学ぶ機会が設けられ，故郷を大事に思う気持ちを持つきっかけになったのではないかと思う。

9 参考文献

『隈之城の歴史と文化財』

発行年月 平成 27 年 8 月

発行 隈之城地区コミュニティ協議会